

鳥獣害対策チェックリストについて

はじめに

鳥獣害対策を地域ぐるみで推進するためには、住民の方々がそれぞれの野生鳥獣の生態や防除方法を知ること、自ら取り組む意識を持つこと、みんなで話し合い共通意識を持つこと、そして集落全体で鳥獣害対策に取り組むことが重要です。そのため、鳥獣害対策を推進していく際には、以上を念頭におきながら普及啓発方法を考えていく必要があります。

本チェックリストは、鳥獣害対策を行う上で必要だと思われる取組を 1．鳥獣害防止施設の設置、2．ほ場とほ場周辺の環境の改善、3．追い払いと捕獲、4．その他、の 4 項目に分類して整理したものです。それぞれの項目をチェックすることで、自らができている取組とできていない取組を再確認することができます。各地域で行われる、学習会や研修会での普及啓発ツールの 1 つとして活用され、住民自らが取り組む意識が高まり、集落全体としての合意形成や共通認識を持つきっかけになれば幸いです。

また、本チェックリストは地域の状況に応じて、様々な活用方法が考えられますが、考えられる活用例もあわせて提案します。

【チェックリスト活用例の提案】

ステップ1:鳥獣害に強い集落・ほ場の判定リスト

このチェックリスト活用して、自分たちのほ場の鳥獣害対策への取組状況を判定し、現状を認識することを目指します。

ステップ2:鳥獣害に強い集落・ほ場を作る取組リスト

このチェックリストを活用して、地域の取組の優先度を明確にし、自分たちの地域の鳥獣害に対する取組の共通認識の形成を目指します。

ステップ3:鳥獣害対策の取組計画

ステップ1とステップ2により得た情報を参考に、話し合いで取組計画を作ります。これにより、集落での共通目標の形成を目指します。

その他：家庭用・集落・被害現場のチェックリスト

自ら、地域・集落、被害ほ場の基本的な取り組みを確認し、次のステップに向けて、共通の認識や合意形成をしましょう。

数ヶ月～1年ごとに取組状況を自己評価し、再点検していくことで、継続的な獣害対策と、取組みのステップアップを目指します。

【留意事項】

- ・ 各分野やチェック項目は地域の状況に応じて弾力的に変更し、その地域に必要な項目を重点的に加える(チェックリスト集などを参考に)。
- ・ 研修会は予め複数回行うことを想定することで、よりきめ細かい合意が可能になる。
- ・ 集計結果はグラフや表などでわかりやすい提示を行うよう努める。
- ・ 予めパワーポイントなどで各項目の説明資料を作成して提示できるよう努める。
- ・ 主催者は集計結果や話し合いの内容などの概要を取りまとめて地域の広報誌などで配布し、情報の共有化を図るよう努める。
- ・ 今後の参考にするために、チェックリストを活用した方は報告をお願いします。

チェックリスト項目例

原案：北陸農政局

1. 獣害防止施設の設置

番号	取組項目
1	防護柵の設置・管理は地域で話し合っている。
2	防護柵は効率的な設置に心がけている。例：複数の圃場を一緒に囲う等
3	柵越し、ネット越しの被害を受けないように作物と柵の間隔を十分にとっている。
4	電気柵は漏電しないように下草刈りなどの管理を徹底している。
5	集落をエサ場にしないため、被害に遭う作物は全て囲んでいる。
6	侵入されたときは、すぐに柵の改善を行っている。
7	廃材利用など安価な防止柵づくりを実践している。
8	防止策を設置しても追い払い等を行っている。
9	防止柵は作物の目隠し効果も取り入れている。

2. ほ場とほ場周辺の環境の改善

番号	取組項目
1	庭や集落内の果樹(カキ・クリ等)は被害に遭わないように適切に管理している。
2	誰も管理していない放任の果樹は伐採している。
3	稲刈り後の2番穂や遅れ穂もエサになるので、耕起している。
4	果菜類はサルから見えない側に果実をならしている(トマト、ナスなど)。
5	キャンプ場などの野外施設は、ゴミ出しの規則を徹底している。
6	クズ野菜は庭や畑にそのまま捨てずにコンポスト等を利用している。
7	耕作放棄地の草木を刈り払って隠れ場所や住処を減らしている。
8	耕作放棄地などに牛や羊等を放牧して雑草の管理に活用している。
9	収穫しないと決めた野菜などは食べられる前に処分している。
10	お墓のお供え物もエサになるので、お参りが済んだら持ち帰っている。
11	生ゴミをほ場周辺に捨てると獣をおびき寄せるので、適切に処理している。
12	コンニャク、トウガラシ、シソ、マコモなど獣害に遭いにくい作物を栽培している。
13	食害を受けにくい栽培方法を実践している。
14	タケノコはエサになりやすいので、竹藪を管理して、できるだけ穫っている。
15	畑の周辺で野生化している野菜は取り除いている。
16	被害を受けたらすぐに対処して繰り返し被害を受けないようにしている。
17	無人直売所などは野菜を盗られないように工夫している。
18	サルにエサを与えないように観光客などに呼びかけている。
19	野生動物の隠れ場所になりそうな茂みなどは、なるべく減らしている。
20	エサ場になる畑をなくすようにみんなで注意している。

3. 追い払いと捕獲

番号	取組項目
1	電波発信機によるサルの位置情報は地域のみで共有している。
2	電波発信機によりサルが人里に近づいてきたら先回りして追い払っている。
3	作物に被害を与えていなくても里に近づいたサルは追い払っている。
4	威嚇機器(爆音器や忌避剤)は慣れが生じないように組み合わせて行っている。

5	ロケット花火による追い払いはなるべくみんなで行っている。
6	サルを見かけたら誰でもいつでも追い払うようにしている。
7	被害を出す個体を中心に捕獲するようにしている。
8	捕獲計画は、捕獲後の処分まで計画している。
9	猟友会との連携はしっかりしている。
10	地域で狩猟免許の取得に取り組んでいる。
11	駆除だけに偏らず防除対策もしっかりしている。
12	効果的で効率的な捕獲に努めている。
13	追い払いは、一部の人に頼らずみんなで行っている。

4. その他

番号	取組項目
1	獣害対策は地域全体の問題としてみんなで取り組んでいる。
2	獣害対策をみんなで話し合う場を設けている。
3	収穫祭りや朝市、収穫体験などを開催して、地域に人が集まるようにしている。
4	地域が活性化するように、みんなで取り組んでいる。
5	野生鳥獣が里山にでないように、奥山に実のなる木を植えている。

【利用方法】

獣害対策の取組で必要だと思われる項目をリストアップしています。
このチェックリストを参考に被害を及ぼす獣種、地域の取組状況を考慮にいれながら、
それぞれの地域で活用しやすいチェックリストに編集してください。
項目数の変更、文章の変更、項目の追加等は自由に行ってください。

ステップ1

鳥獣害に強い集落・圃場の判定リストの項目例

鳥獣害対策は野生動物を人里に近づけないようにすることが最も大切です。そのためには農作物を盗られないようにしっかり防護すること、集落をエサ場にしないこと、動物の隠れ場所をつくらないこと、追い払いと捕獲を効率よく行うといった総合的被害防除対策が必要です。

さて、皆さんの集落では鳥獣害対策にどんな取組をしているのでしょうか？

まずは皆さんで、日頃の鳥獣害対策について話し合っ、取組を確認してみましょう。

それぞれの取組項目について「取組を行っている場合は○ 行っていない場合は×」を記入してください。

1. 獣害防止施設の設置について

獣害防止施設は獣への物理的遮断、精神的遮断、視覚的遮断の3つの効果があります。

獣害防止施設は様々なタイプがあり、その種類や効果、価格なども様々です。

目的に合った適切な設置と管理を行えるように、地域で話し合しましょう。

番号	取組項目	○ or ×
1	防護柵の設置・管理は地域で話し合っている。	
2	防護柵は効率的な設置に心がけている。例：複数の圃場を一緒に囲う等	
3	柵越し、ネット越しの被害を受けないように作物と柵の間隔を十分にとっている。	
4	電気柵は漏電しないように下草刈りなどの管理を徹底している。	
5	集落をエサ場にしないため、被害に遭う作物は全て囲んでいる。	
6	侵入されたときは、すぐに柵の改善を行っている。	
7	廃材利用など安価な防止柵づくりを実践している。	
8	防止策を設置しても追い払い等を続けている。	
9	防止柵は作物の目隠し効果も取り入れている。	

2. ほ場とほ場周辺の環境の改善

ほ場とほ場周辺の環境の改善は「集落をエサ場にしない」「集落周辺を獣の隠れ場所(住処)にしない」ことが重要です。集落内に盗りやすいエサがある限り獣害はなくなりません。

番号	取組項目	○ or ×
1	庭や集落内の果樹(カキ・クリ等)は被害に遭わないように適切に管理している。	
2	誰も管理していない放任の果樹は伐採している。	
3	稲刈り後の2番穂や遅れ穂もエサになるので、耕起している。	
4	果菜類はサルから見えない側に果実をならしている(トマト、ナスなど)。	
5	キャンプ場などの野外施設は、ゴミ出しの規則を徹底している。	
6	クズ野菜は庭や畑にそのまま捨てずにコンポスト等を利用している。	
7	耕作放棄地の草木を刈り払って隠れ場所や住処を減らしている。	
8	耕作放棄地などに牛や羊等を放牧して雑草の管理に活用している。	
9	収穫しないと決めた野菜などは食べられる前に処分している。	
10	お墓のお供え物もエサになるので、お参りが済んだら持ち帰っている。	
11	生ゴミをほ場周辺に捨てると獣をおびき寄せるので、適切に処理している。	
12	コンニャク、トウガラシ、シソ、マコモなど獣害に遭いにくい作物を栽培している。	
13	食害を受けにくい栽培方法を実践している。	
14	タケノコはエサになりやすいので、竹藪を管理して、できるだけ穫っている。	
15	畑の周辺で野生化している野菜は取り除いている。	
16	被害を受けたらすぐに対処して繰り返し被害を受けないようにしている。	

17	無人直売所などは野菜を盗られないように工夫している。	
18	サルにエサを与えないように観光客などに呼びかけている。	
19	野生動物の隠れ場所になりそうな茂みなどは、なるべく減らしている。	
20	エサ場になる畑をなくすようにみんなで注意している。	

3. 追い払いと捕獲

野生動物が人里に侵入するのは、動物が人を恐れなくなったことも原因の一つといわれています。根気よく、永続的に追い払いと捕獲を行うことによって動物にプレッシャーを与えましょう。

番号	取組項目	or x
1	電波発信機によるサルの位置情報は地域の人みんなで共有している。	
2	電波発信機によりサルが人里に近づいてきたら先回りして追い払っている。	
3	作物に被害を与えていなくても里に近づいたサルは追い払っている。	
4	威嚇機器(爆音器や忌避剤)は慣れが生じないように組み合わせで行っている。	
5	ロケット花火による追い払いはなるべくみんなで行っている。	
6	サルを見かけたら誰でもいつでも追い払うようにしている。	
7	被害を出す個体を中心に捕獲するようにしている。	
8	捕獲計画は、捕獲後の処分まで計画している。	
9	猟友会との連携はしっかりしている。	
10	地域で狩猟免許の取得に取り組んでいる。	
11	駆除だけに偏らず防除対策もしっかりしている。	
12	効果的で効率的な捕獲に努めている。	
13	追い払いは、一部の人に頼らずみんなで行っている。	

4. その他

獣害対策は被害を受けている農家だけの問題としてではなく、地域全体の問題として捉えることが大切です。地域の人々と話し合っ取り組みましょう。

番号	取組項目	or x
1	獣害対策は地域全体の問題としてみんなで取り組んでいる。	
2	獣害対策をみんなで話し合う場を設けている。	
3	収穫祭りや朝市、収穫体験などを開催して、地域に人が集まるようにしている。	
4	地域が活性化するように、みんなで取り組んでいる。	
5	野生鳥獣が里山にでないように、奥山に実のなる木を植えている。	

の多さによって、取組状況を判断します。

- 例： の数が全体の2 / 3以上は鳥獣害に強い集落
 の数が全体の2 / 3 ~ 1 / 3は鳥獣害に少しつよい集落
 の数が全体の1 / 3以下は鳥獣害に弱い集落

利用方法

- ・グループで回答して貰っても、個人で回答して貰っても良いと思われる。
- ・この判定リストを取り組むことにより、それぞれの取組の度合いや認識を自覚して貰うことが目的
- ・これらの取組項目は各地域の状況にあわせて編集すること。項目数、文章の変更、項目の追加等
- ・指導者はそれぞれの項目について、説明できるようにしておく。
- ・それぞれの取組の代表的な良い事例・悪い事例など準備しておく伝わりやすい。
- ・指導者は解答用紙を回収して、結果をグラフなどにわかりやすく取りまとめ提示する。

ステップ2

鳥獣害に強い集落・圃場を作る取組リストの項目例

集落・ほ場の鳥獣害対策を少しでも進めるために、個人で取り組めること、みんなで取り組めることを明確にする必要があります。それぞれの取組で大切だと思う取組(必要性)とその取組の取り組みやすさをみんなで話し合ってみてください。

それぞれの取組項目の、必要性の欄について、必要：○、少し必要：△、不必要：×、を記入してください。取組易さの欄について、取組易い：○、少し取組易い：△、取組にくい：×、を記入してください。

1. 獣害防止施設の設置について

獣害防止施設は獣への物理的遮断、精神的遮断、視覚的遮断の3つの効果があります。

獣害防止施設は様々なタイプがあり、その種類や効果、価格なども様々です。

目的に合った適切な設置と管理を行えるように、地域で話し合しましょう。

番号	取組項目	必要性	取組易さ
1	防護柵の設置・管理は地域で話し合う。		
2	防護柵は効率的な設置に心がける。例：複数の圃場を一緒に囲う等		
3	柵越し、ネット越しの被害を受けないように作物と柵の間隔を十分にとる。		
4	電気柵は漏電しないように下草刈りなどの管理を徹底する。		
5	集落をエサ場にしないため、被害に遭う作物は全て囲む。		
6	侵入されたときは、すぐに柵の改善を行う。		
7	廃材利用など安価な防止柵づくりを実践する。		
8	防止策を設置しても追い払い等続ける。		
9	防止柵は作物の目隠し効果も取り入れる。		

2. ほ場とほ場周辺の環境の改善

ほ場とほ場周辺の環境の改善は「集落をエサ場にしない」「集落周辺を獣の隠れ場所(住処)にしない」ことが重要です。集落内に盗りやすいエサがある限り獣害はなくなりません。

番号	取組項目	必要性	取組易さ
1	庭や集落内の果樹(カキ・クリ等)は被害に遭わないように適切に管理する。		
2	誰も管理していない放任の果樹は伐採する。		
3	稲刈り後の2番穂や遅れ穂もエサになるので、耕起する。		
4	果菜類はサルから見えない側に果実をならす(トマト、ナスなど)。		
5	キャンプ場などの野外施設は、ゴミ出しの規則を徹底する。		
6	クズ野菜は庭や畑にそのまま捨てずにコンポスト等を利用する。		
7	耕作放棄地の草木を刈り払って隠れ場所や住処を減す。		
8	耕作放棄地などに牛や羊等を放牧して雑草の管理に活用する。		
9	収穫しないと決めた野菜などは食べられる前に処分する		
10	お墓のお供え物もエサになるので、お参りが済んだら持ち帰る。		
11	生ゴミをほ場周辺に捨てると獣をおびき寄せるので、適切に処理する。		
12	コンニャク、トウガラシ、シソ、マコモなど獣害に遭いにくい作物を栽培する。		
13	食害を受けにくい栽培方法を実践する。		
14	タケノコはエサになりやすいので、竹藪を管理して、できるだけ穫る。		
15	畑の周辺で野生化している野菜は取り除く。		

16	被害を受けたらすぐに対処して繰り返し被害を受けないようにする。		
17	無人直売所などは野菜を盗られないように工夫する。		
18	サルにエサを与えないように観光客などに呼びかける。		
19	野生動物の隠れ場所になりそうな茂みなどは、なるべく減らす。		
20	エサ場になる畑をなくすようにみんなで注意する。		

3. 追い払いと捕獲

野生動物が人里に侵入するのは、動物が人を恐れなくなったことも原因の一つといわれています。根気よく、永続的に追い払いと捕獲を行うことによって動物にプレッシャーを与えましょう。

番号	取組項目	必要性	取組易さ
1	電波発信機によるサルの位置情報は地域のみで共有する。		
2	電波発信機によりサルが人里に近づいてきたら先回りして追い払う。		
3	作物に被害を与えていなくても里に近づいたサルは追い払う。		
4	威嚇機器(爆音器や忌避剤)は慣れが生じないように組み合わせで行う。		
5	ロケット花火による追い払いはなるべくみんなで行う。		
6	サルを見かけたら誰でもいつでも追い払う。		
7	被害を出す個体を中心に捕獲するようにする。		
8	捕獲計画は、捕獲後の処分まで計画する。		
9	猟友会との連携をしっかりとる。		
10	地域で狩猟免許の取得に取り組む。		
11	駆除だけに偏らず防除対策も行う。		
12	効果的で効率的な捕獲に努める。		
13	追い払いは、一部の人に頼らずみんなで行う。		

4. その他

獣害対策は被害を受けている農家だけの問題としてではなく、地域全体の問題として捉えることが大切です。地域の人々と話し合っ取り組みましょう。

番号	取組項目	必要性	取組易さ
1	獣害対策は地域全体の問題としてみんなで取り組む。		
2	獣害対策をみんなで話し合う場を設ける。		
3	収穫祭りや朝市、収穫体験などを開催して、地域に人が集まるようにする。		
4	地域が活性化するように、みんなで取り組む。		
5	野生鳥獣が里山にでないように、奥山に実のなる木を植えている。		

利用方法

- ・ の取組を3点、 の取組を2点、×の取組を1点として、それぞれの取組を採点してください。
- ・ 点数の高い取組がその集落において、優先度が高い取組です。
- ・ 点数の高い取組について、更に話し合いを進めて取組が実行できるか議論しましょう。

ステップ3

(集落・地区)の獣害対策の取組計画

ステップ1とステップ2で、集落の現状や取組項目の優先順が共有されたら、具体的に獣害対策の取組計画を作ってみましょう。

1. 長期的な目標(夢)

例: 集落で、直売所を設けて作物を販売する！
牛や羊を放牧して地域の活性化を目指す！ 等 夢のある目標を立ててみてください。

2. 短期目標(半年～1年)

例: 地区には、絶対農作物の被害を出させない！
地域で協力して猿落君の設置を m以上設置する！
等 努力すれば達成可能な目標を立ててください。

3. 具体的な取組

(1) 個人で取り組むこと3箇条

ステップ2の取組項目を参考に個人で、できる取組を3つあげてみましょう。
例 ・コンポストを設置する。
・ロケット花火を常備して、追い払いを積極的する。
・庭のカキの実を被害に遭う前に収穫する 等

(2) みんなで取り組むこと3箇条

ステップ2の取組項目を参考にみんなのできる取組を3つあげてみましょう。
例 ・学習会を年3回開催する。
・柵の設置はみんなでする。
・追い払いの見廻り当番を決める。 等

家庭用チェックリスト例

野生動物を人里に近づけないようにするには、野生動物のエサ場にならないこと、人里に近づくための隠れる場所を作らないことをしっかり行うことが必要です。

皆さん一人一人が、意識を持って取り組まない限り、被害を減らすことはできないのではないのでしょうか。

まずは、皆さんの家庭で行えることを実践しているか(行うこと)を確認しましょう。

それぞれの項目について、「行っている場合は○、行っていない場合×」を記入してください。

取 組 項 目	○ or ×
被害を受けたら家族や近所、市町村及びJA担当者に連絡している	
クズ野菜は庭や畑にそのまま捨てずにコンポスト等を利用している。	
生ゴミをほ場周辺に捨てると獣をおびき寄せるので、適切に処理している。	
お墓のお供え物もエサになるので、お参りが済んだら持ち帰っている。	
収穫しないと決めた野菜などは食べられる前に処分している。	
畑の周辺で野生化している野菜は取り除いている。	
稲刈り後の2番穂や遅れ穂もエサになるので、耕起している。	
庭や集落内の果樹(カキ・クリ等)は被害に遭わないように適切に管理している。	
食害を受けにくい栽培方法を実践している。	
柵越し、ネット越しの被害を受けないように作物と柵の間隔を十分にとっている。	
電気柵は漏電しないように下草刈りなどの管理を徹底している。	
侵入されたときは、すぐに柵の改善を行っている。	
被害を受けたらすぐに対処して繰り返し被害を受けないようにしている。	
野生動物の隠れ場所になりそうな茂みなどは、なるべく減らしている。	

地域用チェックリスト例

鳥獣被害対策は、地域、集落で行うことにより被害防止に対する共通認識も図られ、一層の被害軽減につながるのではないのでしょうか。

このチェックリストを使い、地域や集落での話し合いなどで確認してみましょう。

それぞれの項目について、「行っている場合は○、行っていない場合×」を記入してください。

取 組 項 目	○ or ×
地域で学習会を行っている。	
防護柵の設置・管理は地域で話し合っている。	
廃材利用など安価な防止柵づくりを実践している。	
防止柵を設置しても追い払い等を行っている。	
防止柵は作物の目隠し効果も取り入れている。	
誰も管理していない放任の果樹は伐採している。	
キャンプ場などの野外施設は、ゴミ出しの規則を徹底している。	
耕作放棄地の草木を刈り払って隠れ場所や住処を減らしている。	
耕作放棄地などに牛や羊等を放牧して雑草の管理に活用している。	
タケノコはエサになりやすいので、竹藪を管理して、できるだけ穫っている。	
無人直売所などは野菜を盗られないように工夫している。	
サルにエサを与えないように観光客などに呼びかけている。	
エサ場になる畑をなくすようにみんなで注意している。	
作物に被害を与えていなくても里に近づいたサルは追い払っている。	
ロケット花火による追い払いはなるべくみんなで行っている。	
サルを見かけたら誰でもいつでも追い払うようにしている。	
地域で狩猟免許の取得に取り組んでいる。	
駆除だけに偏らず防除対策もしっかりしている。	
追い払いは、一部の人に頼らずみんなで行っている。	

被害現場確認シート(例)

被害状況

年 月 日被害発生

住所 _____

獣類名: _____

被害作物等 _____

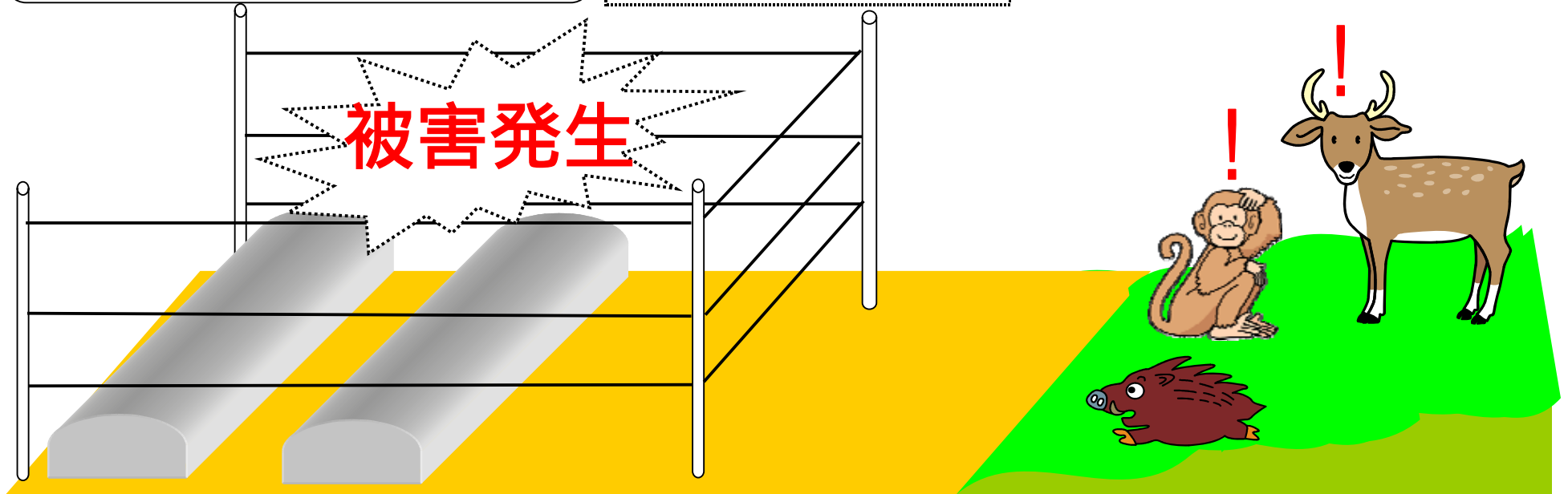
被害内容

[写真]

被害現場チェックリスト

柵(ネット、フェンス、電気柵)を定期的に点検していたか。
被害現場の周辺にエサ場となる環境を作っていないか。
緩衝帯の環境整備はされていたか。
被害前兆は無かったか。
追払いを行ったか。
ほ場を見回っていたか。

気が付いたことを記入しましょう。



チェックリスト活用報告書

チェックリストをよりよく改良していくために、チェックリストを活用された指導者の方は活用事例の報告をして頂ければ幸いです。
頂いた活用事例やご意見に基づき更に実用性の高いチェックリストを作成していきます。

1. 活用方法(内容)を教えてください。
2. 利用した人のおよその人数を教えてください。
3. 効果や問題点等ありましたら、教えてください。
4. 活用した資料などよろしければ送付願います。
5. チェックリストを活用した感想をお聞かせください。
6. その他チェックリストを更に良くするためのアイデア等ありましたらお聞かせください。

ご報告ありがとうございました。